自然科学書協会 70 年史

（60 年史追録版）

2007－2016

一般社団法人　自然科学書協会

自然科学書協会 70 年史　目次

理事長挨拶 …… 3

この 10 年間の主な取り組み

著作権問題への取り組み…… 6
消費税問題への取り組み…… 8
一般社団法人移行への取り組み…… 10

特 別 寄 稿

自然科学書分野における電子配信の歩み…… 14

60 周年以後の行事について …… 15

役 員 名 簿

役員就任推移（2006（平成 18）年度～2015（平成 27）年度） …… 36
2016（平成 28）年度の役員 …… 39

現在の会員名簿…… 41

［本扉］**自然科学書協会マークについて**

マークを作ろうというのは 1948（昭和 23）年 3 月頃でした。その頃目録を作るのにマークが必要だということになって NSPA の頭文字と世界に知識を求めるということから地球を使ってということで、雑誌平凡の挿絵を描いている私の甥の古川龍三に図案化を頼んだものがこのマークで、出来上がったものは割合好評で皆さんに親しまれてきました（八木佐吉氏談「自然科学書協会 20 年の歩み」より）。

ご 挨 拶

一般社団法人　自然科学書協会
理事長　金　原　　優

一般社団法人自然科学書協会は本年創立70周年を迎えることができました。これもひとえに当協会を支えて頂いた自然科学領域の研究者、著者、読者、出版ならびに関連業界、関連する官公庁各位のご指導とご協力の賜物であり、関係者各位に厚く御礼を申し上げます。

当協会は出版業界内に数多く存在する団体としては最も歴史のある団体の一つであり、第二次世界大戦直後の1946年に創立されております。当時の日本はまだ戦後の復興期とすらいえない状況であったと思いますが､その後の日本の発展の必要性をいち早く察知し、自然科学領域の情報を的確に伝達するために専門書出版社が結集し、出版活動の活性化と機能化を目的として当協会を設立致しました。結果的にこの70年間に日本は大きく飛躍し、経済的にも科学的にも特筆した成果を残す世界でも有数の先進国として成長することができました。それは当協会会員社が発行してきた自然科学領域の専門書ならびに教科書・参考書等が大きく貢献したと言っても過言ではないと思います。

自然科学書協会はこれまでに協会「50年史」ならびに「60年史」を発行してきました（古くは「20年史」、「30年史」も現存しています）。「60年史」は「50年史」を補完する「追録版」として直近の10年間の活動をまとめたものとしましたが、この「70年史」も「60年史」以降の10年間の活動をまとめたものとして皆様のお手許にお届けします。

出版業界において過去10年間の最も大きな動きは情報処理と出版の電子化です。コンピュータは今から40年以上前の1970年代には登場していましたが、インターネットの出現によって情報伝達は大きく変化しました。それらによって世の中に多くの変化がもたらされました。出版ならびに情報伝達のあり方も直接的に大きな変革期を迎えました。このデジタル社会への変化によって学術情報の流通は様変わりし、これまでの紙媒体の出版から電子媒体への出版に大きく変わろうとしています。自然科学領域の専門書出版はまさにその渦中にあり、出版物の内容としてもその流通としても当協会会員社に与えられた使命は重要であると認識しています。今後も当協会ならびに会員社はこの問題に積極的に取り組み、的確かつ迅速な自然科学領域の専門情報の伝達に取り組みます。

情報のデジタル化に伴い、出版物の複製利用もこの10年で大きく変化しました。情報検索技術が進み、必要な情報をその都度、必要に応じて利用することが可能となり、これまでのように常に出版物を身近に置いておくことから、必要に応じて複製利用することによって膨大な資料の中から求める情報を有効に活用することに変化しました。これによって複製にかかる許諾が必要となり、出版界はこういった出版物の利用にも対応しなければなりません。情報のデジタル化は、重たい出版物を持ち運びすることから携帯型の端末機器に情報を電子的に再生して閲覧することに変化させました。これも出版物の複製利用であり、出版社の対応が求められています。

当協会はこれら直近の動きを注視し、引き続き自然科学領域の専門書に特有の問題に対して積極的に取り組んで参ります。70年の歴史と経験を踏まえ、日本が今後も科学技術創造立国として世界の最先端に立つための知識と情報を国民に伝え、同時に世界にそれを発信する役割を担います。科学技術の発展は止まることなく進んでいきます。今後も当協会に与えられたその責任を再認識し、自然科学領域の専門情報が幅広く流通するために最大限の努力を重ねます。関係各位のご指導とご協力をお願い申し上げます。

この 10 年間の主な取り組み

著作権問題への取り組み

梅澤　俊彦

（著作・出版権委員会 委員長）

出版者著作権管理機構（JCOPY）の設立

創立から 70 周年を経る中で、著作権管理に関する活動は、当協会の重要な事業の一つとされてきた。

現在までに当協会は「出版者著作権協議会」（以後出著協）や「日本複写権センター」（現日本複製権センター、以後 JRRC）での活動を通して、また「日本著作出版権管理システム」（以後 JCLS）の設立に大いに協力することにより違法複製の問題に取り組んできた。長年にわたる活動の詳細は「自然科学書協会 50 年史」「自然科学書協会 60 年史」を参照いただき、ここでは、この 10 年の動きを述べさせていただきたい。

当協会もその設立に大きく関わった JCLS と出著協は、利用者の利便性を図るための著作権管理機構一元化の第 1 段階として、その 2 つの機構の統合が議論されることとなった。

その結果 2009 年 4 月 1 日に出版者 7 団体（日本書籍出版協会、日本雑誌協会、自然科学書協会、出版梓会、日本専門新聞協会、日本図書教材協会、日本楽譜出版協会）の協力のもと、JCOPY が設立される形で統合の運びとなった。JCOPY は複数単価制による著作権の委託管理業務を行うことを特徴として設立され、機構の統合によって解散した出著協に代わり、JRRC の構成団体の一員になった。また、それによって JCOPY は単一単価制をとる JRRC への管理再委託業務を代行することになった。2015 年 4 月には国内で先駆けとなる電子化許諾に係る使用料規定を策定し運営を開始している。

さらに JCOPY は、著作権管理窓口の一本化を目指し、JRRC へ対して複数単価制の導入を始めとした改善要求を行った。

しかしながらその改善は実現されず、2016 年 3 月に JRRC への管理再委託業務終了と退会が決議された。それにより JCOPY は単独で JRRC と協力関係を築きつつ、出版者・利用者双方にとって最適な著作権管理機構を目指し活動して行くこととなった。

自然科学書協会 転載許諾ガイドラインの策定

2008 年に当協会は転載許諾に関するガイドラインを会員社向けに策定した。

自然科学領域の出版物は、幅広い読者に読まれ利用されることが学術の発展に寄与することになるのは当然であるが、出版に際して時としてすでに発表された他の著作物からその内容の一部分を転載することが必要となる場合がある。そこで当協会では転載許諾に係る共通の原則を設定することにより学術情報の流通を促進することが学術専門出版社、著者そして学術専門領域全体の利益に叶うことになると考え、転載許諾ガイドラインの策定を行った。また同年 11 月 26 日に日本出版クラブ会館において会員向け説明会を開催し、ガイドラインの運用を開始した。

電子出版権と著作隣接権
（自然科学書協会出版契約書ヒナ型の作成）

近年の出版物の電子化の進歩に鑑み、これまで紙媒体の出版物にのみ認められていた出版権が電子の出版物にも認められる形で 2015 年 1 月から改正著作権法が施行された。当協会ではこれに合わせて 2015 年 7 月に電子出版に対応した出版契約書ヒナ型を会員向けに作成し、同年 8 月 27 日には日本出版クラブ会館において、当協会会員向けに説明会を開催した。

長年出版界としては複写機の普及・発達による違法複製への対応として著作隣接権制度の法制化を主張してきた。また 2010 年頃からは電子出版に関する技術や市場の躍進もあり、この法制化に関してさらに活発に議論されるようになった。しかしながら、出版者に対し著作隣接権を付与することには慎重な意見が多かった。

ところが 2012 年には超党派の国会議員、出版関係者、作家等で構成された「印刷文化・電子文化の基盤

整備に関する勉強会」が出版者への権利付与について、別案として現行の出版権制度を電子出版にも拡張する法改正案を提唱した。これにより法改正への動きが一気に加勢され電子出版権の創設につながった。

違法なスキャン代行業者への対応と権利制限規定導入問題

近年デジタル化技術の進歩により、出版物を無許諾でスキャン代行行為をする違法業者が問題となっている。

当協会もこの問題について対応を行っているが、日本では作家や漫画家たちがスキャン代行業者を訴えた裁判（知的財産高等裁判所 2014 年 10 月 22 日控訴審判決、最高裁判所 2016 年 3 月 16 日上告受理申立不受理）において、その行為は著作権侵害にあたると認められている。それに対し著作権法における権利制限規定（外国におけるフェアユース規定）の整備に関する動きの中でスキャン代行行為についても柔軟に考えるべきという、出版界とは逆行するような意見も各方面から出てきている。そのため当協会としてもスキャン代行問題を含めて、現在諸外国で導入されているフェアユース規定のような一般的な許容規定の日本での導入に対しては慎重な対応策が議論されている。

消費税問題への取り組み

伊藤　富士男

（税制・再販流通特別委員会 委員長）

2014 年 4 月 1 日、17 年ぶりに消費税が 5%から 8%に引き上げられた。これは、2012 年 8 月に与野党賛成多数により可決、成立した社会保障と税の一体改革関連 8 法案に盛り込まれた「消費税改正法案」にもとづき、翌 2013 年 10 月に「消費税率及び地方消費税率の引上げ」が閣議決定されたことによる。

自然科学書協会では、この「消費税改正法」によって 2014 年 4 月 1 日に 8%への消費税率引き上げ、さらに翌 2015 年 10 月 1 日からは 10%に引き上げられることが予定されたことから、それに先立ち「税制・再販流通特別委員会」を設け、「消費税率変更に伴う経過措置」等への対応も含め、書店店頭における運用が適切に行われるよう日本書籍出版協会（書協）その他関連団体と連携して対応することとした。その後、10%への引き上げは再々先送りされ 2019 年 10 月とされたが、2014 年は 1997 年に出版市場がマイナス成長となって以来最大の落ち込みとなったことを踏まえ、当協会が 70 周年を迎えるにあたり、この消費増税対策の経験を再整理し、今後の活動の参考に供したい。

書協では、出版物への軽減税率適用に向けての活動と並行して、実際に税率が引き上げられた場合の対応も検討してきた。2013 年には、雑誌の消費税率の経過措置や価格表示問題を巡って財務省主税局税制第 2 課、文化庁芸術文化課、経済産業省メディアコンテンツ課、公正取引委員会など関係省庁及び生活協同組合、日本チェーンストア協会、日本フランチャイズチェーン協会などとの協議や説明会などを重ねてきた。主な事項は、以下の 3 点である。

(1) 出版物への価格表示について

2004 年に出版物に税込みの総額表示をすることが義務付けられたが、出版物の本体やカバーに具体的な消費税率や税込の価格表示を行うと、税率変更時に莫大な費用をかけ表記の変更を行う必要があるため、出版界では財務当局等と協議の上、スリップへの総額表記により対応してきた。税率変更によるスリップの差し替えも多大な労力を要するところであったが、総額表示の義務が免除される特別措置（2013 年 10 月 1 日から 2018 年 9 月 30 日まで）により、税込価格の表記が必須ではなくなり、スリップも含め総額表示は義務から外れた。【消費税転嫁対策特別措置法第一〇条】

(2) 特定新聞等（雑誌）について

雑誌は、税率引き上げ前に発売された号については、旧税率で販売するという経過措置があった。

定期的に発行される新聞又は雑誌で、発売日が 2014 年 4 月 1 日前であるもののうち、その譲渡が 4 月 1 日以後に行われるものは旧税率（5%）を適用する。【消費税法施行令附則第五条第二項】

消費税導入時から 5%への引上げ時までは、雑誌の価格表記がコードも含めて税込みの表示であったこともあり、この措置が有効であった。しかし、国際的基準に平仄を合わせるため、2004 年 6 月 1 日発売の雑誌からは、雑誌コードを本体価格表記としたため、税率変更時に書店店頭の POS レジで新旧税率を区別できないという事態が予想され、販売現場の大混乱が懸念された。そのため、同経過措置から雑誌を除外するよう要請を行った結果、発行される新聞又は雑誌とある条文から「又は雑誌」が削除され、書籍やムックと同様、2014 年 3 月 31 日までに発売されたものを含めすべての雑誌は単一消費税率(8%)での販売となった。

(3) 予約販売に係る書籍等（雑誌定期購読）について

予約販売による雑誌等の定期購読については、次の経過措置があった。

2013 年 9 月 30 日までに予約販売契約をしたもので、2014 年 3 月 31 日までに代金を受領した場合、2014 年 4 月 1 日以降に書籍・雑誌等を譲渡しても旧税率(5%)が適用される。【消費税法施行令附則第五条第一項】

この措置は、税率変更の半年前までに定期購読契約

をした読者だけが優遇される複雑な仕組みのため、旧税率の期間に行われたすべての予約販売契約について経過措置が適用されるよう当局に要望したが、他の商品契約への波及など諸般の理由により見送られた。

以上、書協をはじめ、雑協（日本雑誌協会）、取協（日本出版取次協会）、日書連（日本書店商業組合連合）など出版4団体では、上記（1）（2）も含め、価格表示と新税率の適用等について読者に知らせるポスター等を制作し、書店店頭において配付・掲示を行うなど、混乱防止のための措置を実施した。

これらの措置により、8%への税率引き上げ時には、販売現場での大きな混乱もなく対応することができた（ただし、増税の影響により、売上については前年比−4.5%と大きな減少となった）。

その後、2015年10月1日から予定されていた消費税率10%への引き上げは1年半繰り下げて2017年4月1日に延期され、参議院選を1ヶ月後に控えた2016年6月に入って、さらに2年半繰り下げる再延期が正式表明された。出版業界にとって更なる売上縮小となる危険性をはらんでいるため、書協を筆頭に出版界を挙げて引き続き軽減税率適用を求めている。ただし、運用上の問題点、仕入消費税の転嫁問題も含めて慎重かつ適切に対応することとしている。

また、次の引き上げに際しては（出版物への軽減税率の適用がない場合は）、年間購読等の予約販売の適用税率（前述（3））など出版物固有の課題が依然としてあることから、前回8%移行時の経験を基に、来たるべき日に向けて今から準備をしておかなければならないと考えている。

一般社団法人移行への取り組み

筑紫　恒男

副理事長
（元 新法人移行特別委員会 委員長）

日本の公益法人制度は、1896（明治 29）年の民法制定とともに始まった。明治時代には、公益事業は国が行うものという考えであったが、戦後「主務官庁の許可を得て」法人化が可能になった。自然科学書協会は、任意団体として 1946（昭和 21）年に発足し、文部省を主務官庁として 1951（昭和 26）年に社団法人となった。

国は、2001（平成 13）年以降、公益法人制度の抜本的な改革に取り組み、「有識者会議」の議論を経て 2004 年 12 月に「公益法人制度の基本的枠組み」を閣議決定、2006 年の通常国会で関連 3 法が成立、2007 年 4 月に公益認定等委員会が発足し、公益認定等ガイドラインが決まった。

既存の社団法人には、2007（平成 19）年 11 月に文部科学省による改革に関する説明会があり、移行の方向が説明された。2008 年 8 月に「公益の増進を目指して」の名のもと、新公益法人制度に移る具体的内容が明らかにされ、2008 年 12 月から 2013 年 11 月までに公益社団法人または一般社団法人に移行しなくてはならないことが示された。目的は、活動していない社団法人・財団法人の解散や、内部留保している資金を供出させたいことと感じた。

移行に当たっては、

①定款が法人法に適合すること

②移行時の純資産額を基礎に計算した公益目的財産額に相当する金額を、公益の目的のために消費する計画（公益目的支出計画）を作成すること

が求められた。

当協会では、文部科学省の指導で、協会の事務所を設けなければならないこと、定款の変更および諸規程の整備を行わなければならないことなど、課題が山積していた（定款を変更し、2008 年 8 月登記完了）。そこに「新公益法人問題」が発生したが、しばらくは他団体の動きなどをみてから検討に入ることとなった。

2008 年 10 月に事務所を文化産業信用組合本店 1 階に開設、公認会計士 徳永　信 氏の指導を得て、次の段階に進むことが可能になった。

新法人移行に向けては、

①会計処理を公益法人会計基準に合わせること

②事業内容を明確にし、さらに公益事業とその他の事業に分けて考えること

が必要であった。そこで、2009 年 6 月から始まる第 59 期の事業計画案・予算案を新基準に沿って作成し、その結果（事業報告書・決算書）を作ることから着手した。

2009 年 9 月に文部科学省の実地調査があり、今までになく詳細に調査され、不足している規程の整備、会計処理手順など、多くの指摘を受けた。文部科学省としても新法人に移行する前の調査と位置づけ、主務官庁としての役割を果たすべく、今までにないほど厳しくチェックしたとのことであった。

2009 年 12 月 3 日の公益法人特別委員会ならびに理事会において、「一般社団法人」に移行することが承認され、具体的作業に入ることになった。

移行に向けては、

①新基準を視野に入れた定款の変更

②諸規程の整備

③公益目的事業の確定・公益目的支出計画の策定

④会計書類の整備

などを行う必要があった。

一番時間をかけたのが、「定款の変更」であった。当協会 60 年の活動を踏まえ、それまでの精神を失わず、今後の発展を見据えることのできる定款にしなければと、国が示した「モデル定款」とは一味違うものにすべく作業した。

諸規程については、現存する規程を見直し、不足する規程を補った。最終的には次の規程を整備した。

・経理規程　・文書管理規定　・公印使用規程
・会員規程　・委員会規程
・70 周年記念事業資金取扱要領
・顧問及び相談役選任規程
・役員候補者選考規程　・慶弔の内規
・功労者表彰内規

公益目的事業としては、次の事業を候補にし、文部科学省にお伺いをした。

①自然科学書協会講演会
②サイエンスカフェ
③自然科学書フェア
④東京国際ブックフェア
⑤海外のブックフェアへの出展（北京国際図書展示会、フランクフルトブックフェア）
⑥文部科学大臣表彰
⑦会報の発行
⑧ホームページによる知識の普及

最終的には、継続事業1：自然科学関連知識の普及及び啓蒙〔①②⑦〕、継続事業2：自然科学関連図書等の国内外への広報及び普及〔⑤④③〕としてまとめた。

2011年4月、移行申請に向けてのまとめの段階に入った。申請作業を指導してもらうため「新日本有限責任監査法人」と契約した。ただし、実際の申請作業は内閣府と事務局のメールでのやりとりが中心となった。

移行申請が認められると、移行法人〔名称は一般社団法人〕となり、内閣府に毎年「公益目的支出計画の実施報告」をしなければならない。支出計画の終了を

一般社団法人への移行過程

年　次	日　付	事　　項
2007年 (平成19年)	11.19, 26	文部科学省主催の公益法人改革説明会（場所：東大工学部）。19日筑紫専務理事、26日本郷理事長出席。従来の公益法人制度を見直し、平成25年11月末までに一般社団法人または公益社団法人に移行しなければならないとの説明を受ける。
	12.5	理事会にて公益法人制度改革説明会の概要を報告、しばらく様子を見ることとする。
2008年 (平成20年)	8.25	「新公益法人制度に関する説明会」（文部科学省東館3階講堂）に筑紫専務理事出席。内閣府、国税庁の担当官より解説。
	10.23	協会内に「公益法人特別委員会」を設置。
2009年 (平成21年)	9.28	文部科学省の実地調査。新公益法人移行を視野に調査。
	12.3	公益法人特別委員会ならびに理事会において「一般社団法人」への移行が承認。
2010年 (平成22年)	7.29	常務理事会にて、「一般社団法人」移行を確認し、「新法人移行実務委員会」立ち上げを承認。
	9.9	第1回新法人移行実務委員会開催、①定款の変更　②決算書の整備　③公益目的支出計画の作成を進めることを確認。当委員会は以降平成24年2月までに13回開催。
	11.15	「早期申請に向けた新公益法人制度の理解を深めるための相談会」に事務局・高山氏出席。担当相談員の坂井義紀弁護士と面談。

年　次	日　付	事　　項
2011年 (平成23年)	2.17	理事会に新定款案を提示。
	4.28	新日本有限責任監査法人と打合せ、新法人移行申請作業を委託。
	5.27	新日本有限責任監査法人との打合せで、公益目的事業を次の8項目とすることを確認。①自然科学書協会講演会　②サイエンスカフェ　③自然科学書フェア　④東京国際ブックフェア　⑤海外のブックフェア　⑥文部科学大臣表彰　⑦会報の発行　⑧HPによる知識普及。会計資料は宗和税理士法人と連携して進める。
	5.31	文部科学省訪問。公益事業を8項目にする件了解を受ける。
	6.28	内閣府相談会。定款・公益目的事業について多くの指摘を受ける。 公益目的事業は、継続事業として「自然科学関連知識の普及及び啓蒙」「自然科学関連図書等の国内外への広報及び普及」の2項目に集約。
	7.21	定時総会にて新定款、公益目的事業を承認。
	10.28	新法人移行申請書を内閣府に提出(電子申請)。
2012年 (平成24年)	2.23	公益法人informationから、申請書類の資料確認依頼。電子申請で手続き（移行認可申請）の確認を行う。
	3.2	内閣府より、来週答申との連絡あり。認可は5月22日を希望。
	5.22	内閣府公益認定等委員会事務局訪問。一般社団法人の認可書受領。
	6.1	「一般社団法人自然科学書協会」登記。
	6.11	移行登記完了届を文部科学大臣に提出。

もって自立した一般社団法人となる。当協会の公益目的財産額を試算したところ約1,900万円、これを公益事業の実施で2016年5月31日まで5年かけて支出し、一般社団法人になることを目指すこととした。

2011年10月に内閣府に申請書類送付、その後追加書類の作成・修正、問い合わせに対しての回答など行い、2012年2月に最終確認がなされた。3月答申で認められ、5月22日に認可書を受領【写真】、第62期に入る6月1日に登記した。8月27日に連絡があり、公益目的財産額：15,980,932円、公益目的支出計画の実施期間：4年間となった。

宗和税理士法人、新日本有限責任監査法人には移行に向けて大変お力添えをいただいた。ここにお礼申し上げる。また、協会内にて組織された委員会は次の通り。（敬称略）

・公益法人特別委員会

（2008.10.23）

委 員 長：本郷允彦
副委員長：筑紫恒男
委　　員：南條光章、後藤武、山本格、及川清、金原優、曽根良介、新谷滋記、飯塚尚彦、山口雅己、森田猛

（2009.8.5）

委 員 長：後藤武
副委員長：筑紫恒男
委　　員：宮部信明、南條光章、新谷滋記、平田直、朝倉邦造、金原優、飯塚尚彦、山本格、及川清、岡田吉弘
顧　　問：本郷允彦

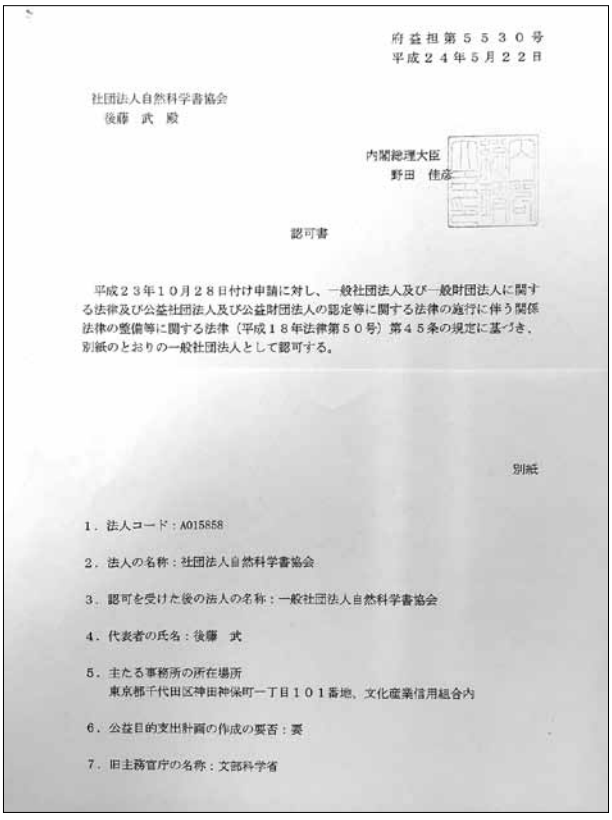
・新法人移行実務委員会

（2010.7.29）

筑紫恒男、南條光章、飯塚尚彦、長滋彦、高山美恵子（事務局）

（2011.8.4）

新 委 員：森田猛、山本格〔新法人移行特別委員会に名称変更〕



府益担第５５３０号
平成２４年５月２２日

社団法人自然科学書協会
後藤　武　殿

内閣総理大臣
野田　佳彦

認可書

平成２３年１０月２８日付け申請に対し、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成１８年法律第５０号）第４５条の規定に基づき、別紙のとおりの一般社団法人として認可する。

別紙

１．法人コード：A015858
２．法人の名称：社団法人自然科学書協会
３．認可を受けた後の法人の名称：一般社団法人自然科学書協会
４．代表者の氏名：後藤　武
５．主たる事務所の所在場所
東京都千代田区神田神保町一丁目１０１番地、文化産業信用組合内
６．公益目的支出計画の作成の要否：要
７．旧主務官庁の名称：文部科学省

特　別　寄　稿

自然科学書分野における電子配信の歩み

金原　俊

（（株）医学書院 取締役副社長）

海外の STM（Scientific, Technical and Medical = 科学・技術・医学）出版社による英文雑誌の電子配信は、インターネットの出現と前後して 1990 年代初め頃に開始され、現在では一部の例外を除いて、すべての STM 分野の雑誌がオンラインで閲覧可能となっています。それを追うようにこの 10 年ほどは書籍の電子化が精力的に進められ、現在、電子書籍は書籍市場全体の 2〜3 割を占めるまでとなり、なお急速に拡大中です。同時に進められているのが雑誌のオープンアクセス化です。出版に必要なコストを著者やスポンサーが負担して、雑誌論文を無料で配信するもので、電子化がもたらす出版ビジネスの大変革と言えます。

こうした一連の電子化を推進しているのが大手の STM 出版社で、初期において多額の投資を行い、自らサイトを構築・運営して自社のコンテンツを配信しています。STM 市場におけるそれらのサイトの支配率は高く、自社サイトを運営する出版社の寡占化にもつながっています。特に雑誌においてはパッケージ単位で販売する、いわゆる「ビッグディール」という手法がとられています。ビッグディールは例えば医学、工学などの分野を単位として、大学などの施設に対して年間の利用権を毎年販売する手法で、一般書において個人に対して 1 点ごとに売り切り型で販売するのとは対照的です。この手法では膨大なコンテンツが際限なく読めるので、多くの施設で歓迎され、大手の STM 出版社に成長をもたらしました。しかし近年、情報量の拡大などによる高額化が顕著となり、施設の反発や軋轢を生むこととなり、現在はビッグディールの見直しの時期にあると言えます。

一方、国内の自然科学書出版の電子配信は、海外の STM 出版に 10 数年遅れた 2000 年代半ばから始まりました。当初は長年の出版のモデルである、個人向けの配信を模索しましたが、施設向けの方が需要が高いことが分かり、比較的早い段階から施設向け配信にシフトされています。しかし、海外の出版社のように自社でサイトを構築・運営する例は少なく、プラットフォーマーと呼ばれる会社に配信と販売を委託し、分配を受け取る方式が現在まで主流となっています。

医学と農学の分野では雑誌が先行して配信され、早い段階から海外の STM 出版同様、ビッグディールによる年間利用が推進されました。現在、医学書においては多くの医科大学、看護大学、病院にて 1,000 誌ほどが閲覧できる状況となり、農学書においては電子図書館サービスとして、膨大なデータベースが施設と個人に提供されています。医学・農学以外の分野では主として施設向けの書籍の電子配信が模索され、1 点ごとに同時アクセス制限を付して販売する手法が主流となっています。この手法では冊子体販売への影響が懸念されるとして、発行後一定期間を経たものだけに限定したり、配信そのものを躊躇する傾向が見られ、現段階では多くの新刊書が配信されている状況とは言えないでしょう。

これとは逆の動きとして医学分野の書籍において、個人への売り切り型の配信を行うサービスが、この数年伸長してきました。一般書で用いられる定番の手法ですが、医学分野に特化したことで出版社からの提供が促され、現在では新刊を中心とした 2,000 冊以上の医学書が配信されています。

以上のとおり、自然科学書分野の電子配信は、特にそのビジネスモデルにおいてまだまだ試行錯誤の段階にあり、確立にはさらなる変革が必要かも知れません。最近になって医学分野では、複数の出版社が協同で配信サイトを構築し、施設・個人に対し雑誌・書籍を配信する試みが開始されました。今後の進展が期待されます。

60 周年以後の行事について

2006–2007
平成 18 年～19 年

[2006（平成 18）年]

6. 11

会員向けに当協会の構成団体である理学書・工学書・農学書・医学書・家政学書の各分野別の講演会を開催。

演　題 「在宅医療　今・これから」

講　師　英　裕雄 氏（新宿ヒロクリニック）

6. 16

オンデマンド出版工場見学会を凸版印刷 POD および書籍工場にて、会員研修会を開催。

7. 6 ～ 9

「第 13 回東京国際ブックフェア（TIBF2006）」への出展。

会　　場　東京ビッグサイト

参加社数　64 社

出 展 数　2,340 点・2,738 冊

売　　上　358 冊　1,106,286 円

7. 20

第 56 期第 1 回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　67 社　内委任状出席　28 社）。

7. 25

社団法人出版梓会、有限責任中間法人大学出版部協会と共催で、会員向け合同研修会を開催。

会　場　日本出版クラブ会館

演　題 「IT 社会における専門書出版の将来－大学図書館からの視点－」

講　師　土屋　俊 氏（千葉大学）

参加者　51 名

8. 30 ～ 9. 2

「第 13 回北京国際図書展示会（BIBF2006）」への出展（23 社・169 点の出品）。

会　場　中国国際展覧センター

10. 4 ～ 8

「第 58 回フランクフルトブックフェア（FBF2006）」への出展（29 社・51 点の出品）。

会　場　フランクフルトメッセ

11. 8

創立 60 周年記念祝賀会を開催（併せて「自然科学書協会 60 年史」を刊行し、記念品の傘と共に配布）。

会　場　日本出版クラブ会館

参加者　160 名

11. 16

東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 9 回出版・印刷人の集い」に社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。

会　場　日本出版クラブ会館

演　題 「書店から見た専門書の動き」

講　師　松嶋　徹 氏（丸善）

12. 6

年末会員集会を東京會舘にて開催（出席者数　108 名）。

[2007（平成 19）年]

1. 18

新年会員集会を日本出版クラブ会館にて開催（出席 43 社　44 名）。

1. 19

社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」が日本出版クラブ会館にて開催され、祝意を表した。

5. 10

財団法人日本出版クラブ主催の「第 46 回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 17

第 56 期第 2 回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　66 社　内委任状出席　33 社）。

5. 28

社団法人出版梓会と共催で、会員向け合同研修会を開催。

会　場　日本出版クラブ会館

演　題 「インターネット上に信頼の知的空間を構築する－ Japan Knowledge という試み－」

講　師　田中　政司・北野　摂 両氏（ネットアドバンス）

参加者　36 名

6. 3

会員向けに当協会の構成団体である理学書・工学書・農学書・医学書・家政学書の各分野別の講演会を開催。
演　題　「職場におけるメンタルヘルスケア」
講　師　鈴木　安名 氏（労働科学研究所）

7. 5 ～ 8

「第 14 回東京国際ブックフェア（TIBF2007）」への出展。
会　　場　東京ビッグサイト
参加社数　64 社
出 展 数　2,379 点・2,710 冊
売　　上　423 冊　1,444,200 円

7. 19

第 57 期第 1 回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　70 社　内委任状出席　25 社）。

8. 30 ～ 9. 3

「第 14 回北京国際図書展示会（BIBF2007）」への出展（21 社・154 点の出品）。
会　場　中国国際展覧センター

10. 10 ～ 14

「第 59 回フランクフルトブックフェア（FBF2007）」への出展（24 社・46 点の出品）。
会　場　フランクフルトメッセ

10. 24

「文字・活字文化推進機構」の設立総会に参加し、その推進に協力。

11. 11

株式会社科学新聞社・株式会社山海堂が退会（会員社数　70 社）。

11. 15

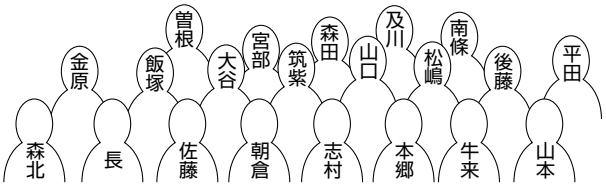
東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 10 回出版・印刷人の集い」に社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「われわれはいったい何を売っているのか」
講　師　長澤　一成 氏（長澤販促塾）

11. 19，26

文部科学省が「公益法人制度改革説明会」を開催。
会　場　東京大学工学部
出席者　本郷理事長、筑紫専務理事

12. 5

年末会員集会を東京會舘にて開催（出席者数　113 名）。



創立 60 周年記念祝賀会

創立 60 周年当時の役員（当時の役職は、「役員名簿」の 2006 年度を参照）

2008–2009
平成20年～21年

[2008（平成20）年]

1. 4
宗和税理士法人と会計処理に関する指導及び相談の業務契約を締結。

1. 17
○新年会員集会を日本出版クラブ会館にて開催（出席41社　44名）。
○社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」が日本出版クラブ会館で開催され、祝意を表した。

2. 27
元理事長 山本　俊一 氏（培風館）逝去に際し、弔意を表明。

3. 3
社団法人出版梓会と共催で、会員向け合同研修会を開催。
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「日本企業の経営者の役割と丸善の挑戦」
講　師　小城　武彦 氏（丸善）
参加者　38名

4. 15
平成20年度文部科学大臣表彰科学技術賞として以下の3件が受賞。
〔表彰対象部門：科学技術賞理解増進部門〕
・「多年にわたる『内科学』の出版活動による医学知識の理解増進」井上　昭彦 氏（朝倉書店）
・「『ロボコンマガジン』を通じて青少年のもの作りへの理解増進」竹西　素子 氏（オーム社）
・「『物理学事典』の20余年継続刊行による科学技術の理解増進」村山　高志 氏（培風館）

5. 9
財団法人日本出版クラブ主催の「第47回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 22
第57期第2回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　70社　内委任状出席　38社）。

6. 16
「『国民読書年』の国会決議をめぐる報告集会」に参加。

7. 10～13
「第15回東京国際ブックフェア（TIBF2008）」への出展。新しい試みとして各社の代表的出版物コーナーを実施。
会　　場　東京ビッグサイト
参加社数　62社
出 展 数　2,252点・2,633冊
売　　上　450冊　1,396,169円

7. 17
第58期第1回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　68社　内委任状出席　34社）。

8. 25
文部科学省が「新公益法人制度に係る説明会」を開催。
会　場　文部科学省3階会議室
出席者　筑紫専務理事

9. 1～4
「第15回北京国際図書展示会（BIBF2008）」への出展（27社・213点の出品）。
会　場　天津国際展覧センター

9. 30
事務所賃貸契約を三井不動産立会いのもと、文化産業信用組合と締結。

10. 1
文化産業信用組合1階に協会事務所を開設。
事務職員として、高山　美恵子 氏と契約。**【写真①】**

10. 3
出版平和堂第40回合祀者顕彰会が執り行われた（当協会関係合祀者：三浦　裕士 氏（医歯薬出版））。

10. 15～19
「第60回フランクフルトブックフェア（FBF2008）」への出展（30社・59点の出品）。
会　場　フランクフルトメッセ

10. 30
文字・活字文化推進機構主催のシンポジウム「あたたかい医療と言葉の力」に出席（会場：一橋記念講堂）。

11. 13
東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第11回出版・印刷人の集い」に社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「メンタルヘルス問題の傾向と対策」
講　師　松本　桂樹 氏（臨床診断士・精神保健福祉士・シニア産業カウンセラー）

11. 26
会員向けに「転載許諾ガイドライン説明会」を日本出版クラブ会館にて開催。

12. 4
年末会員集会を東京會舘にて開催(出席者数　107名)。

12. 5
有限責任中間法人大学出版部協会の「創立45周年感謝の会」に出席し、祝意を表した（会場：東海大学校友会館)。

12. 9
工学書協会の「創立60周年祝賀会」に出席し、祝意を表した（会場：日本出版クラブ会館)。

12. 11
社団法人出版梓会の「創立60周年祝賀会」に出席し、祝意を表した（会場：東京會舘)。

[2009（平成21）年]

1. 6
全国医書同業会新年互礼会に出席（会場：帝国ホテル)。

1. 15
新年会員集会を日本出版クラブ会館にて開催（出席45社　49名)。

1. 20
社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」が日本出版クラブ会館にて開催され、祝意を表した。

1. 31
文字・活字文化推進機構主催のシンポジウム「活字文化の振興における教科書の役割」に出席（会場：銀座フェニックスプラザホール)。

3. 5
会員向け研修会を開催。
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「ICタグの出版への導入」
講　師　中島　洋 氏（日立製作所）

4. 13～19
第50回科学技術週間において、文部科学省と共催でサイエンスカフェを神保町にて開催。**【写真②】**
共催したサイエンスカフェは次の通り。
・13日　新しい超伝導の夢を追って：秋光　純 氏（青山学院大学）
・14日　食事摂取基準を背景にした個人対応の食事学：池本　真二 氏（お茶の水女子大学）
・17日　破壊事故は何故起こるか：小林　英男 氏（横浜国立大学）
・18日　こころの不調を防ごう：松本　桂樹 氏（ジャパンEAPシステムズ）
・18日　日本の果物、今までとこれから：梶浦　一郎 氏（農業・食品産業技術総合研究機構）

4. 14
平成21年度文部科学大臣表彰科学技術賞として以下の2件が受賞。
〔表彰対象部門：科学技術賞理解増進部門〕
・「酵素ハンドブックの出版活動による生命科学の理解増進」高原　富夫 氏（朝倉書店）
・「多年にわたる治療年鑑による臨床医学の理解増進」阪本　稔 氏（医学書院）

5. 7～7. 4
「自然科学書フェア2009」を開催。
○仙台　5月10日～6月28日＜丸善仙台アエル店＞
参加社数は53社､出展数は261点・682冊。**【写真③】**
○京都　Ⅰ期　5月7日～6月6日　Ⅱ期　6月8日～7月4日＜ジュンク堂書店京都BAL店＞
Ⅰ期とⅡ期の合計で、参加社数は60社、出展数は300点・1,500冊。

5. 11
財団法人日本出版クラブ主催の「第48回全出版人大

会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 13 ～ 17

○ソウル国際ブックフェアへの出展（日本年、337 点の出品）。**【写真④】**

会　場　韓国総合展示場

○当協会主催で同フェアへの視察ツアーを実施（5.12 ～15）（8 名参加）。**【写真⑤】**

5. 21

第 58 期第 2 回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　67 社　内委任状出席　35 社）。

6. 17 ～ 18

「自然科学書フェア 2009」と連携を図り、「自然科学書協会講演会 2009」を開催（文部科学省後援）。

○仙　台（6.17）

会　場　せんだいメディアテーク
演　題　「環境変化とダニ」
講　師　青木　淳一 氏（横浜国立大学名誉教授）
演　題　「人口減少を迎える世界と医療科学技術」
講　師　藤正　巖 氏（東京大学名誉教授）
参加者　約 50 名

○京　都（6.18）

会　場　コープイン京都
演　題　「ここまで来た先端医療と日本の課題」
講　師　井村　裕夫 氏（元京都大学総長）
演　題　「生きものはつながりの中に」
講　師　中村　桂子 氏（JT 生命誌研究館）
【写真⑥】
参加者　約 90 名

7. 9 ～ 12

「第 16 回東京国際ブックフェア（TIBF2009）」への出展。

会　　場　東京ビッグサイト
特設コーナー　事典・図鑑・ハンドブック類
参加社数　62 社
出 展 数　2,114 点・2,479 冊
売　　上　401 冊　1,295,715 円

7. 16

第 59 期第 1 回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　67 社　内委任状出席　34 社）。

7. 24

社団法人出版梓会「業界・会員社懇親の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

9. 3 ～ 7

「第 16 回北京国際図書展示会（BIBF2009）」への出展（24 社・147 点の出品）。

会　場　中国国際展覧センター

9. 5

「サイエンスカフェ in 京都」を三省堂書店と共催で開催。

会　場　京都駅ビル専門店街「西利」
演　題　「情報通信技術で実現する知的なオフィス環境」
講　師　三木　光範 氏（同志社大学）

10. 2

出版平和堂第 41 回合祀者顕彰会が執り行われた（当協会関係合祀者：山本　俊一 氏（培風館）・椿　孝雄 氏（医学書院））。

10. 14 ～ 18

「第 61 回フランクフルトブックフェア（FBF2009）」への出展（32 社・62 点の出品）。

会　場　フランクフルトメッセ

11. 19

東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 12 回出版・印刷人の集い」に社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。

会　場　日本出版会館
演　題　「出版界の現状と今後－いかなる未来が出版をまちうけるのか？－」
講　師　菊池　明郎 氏（筑摩書房）
演　題　「出版物デジタル化の行方－ Google ショックと国会図書館プロジェクト－」
講　師　平井　彰司 氏（筑摩書房）

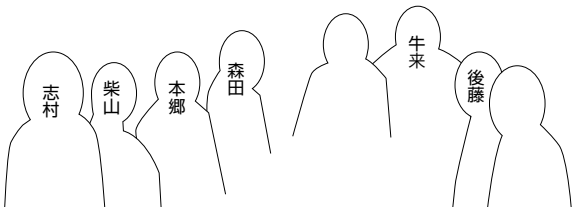
12. 4

年末会員集会を東京會舘にて開催（出席者数　111 名）。**【写真⑦】**

【写真①】事務職員　高山 美恵子 氏

【写真②】サイエンスカフェ（神保町）

【写真③】自然科学書フェア 2009（丸善仙台アエル店）



【写真④】協会ブース

【写真⑤】視察団員（一部）

ソウル国際ブックフェア

【写真⑥】自然科学書協会講演会 2009　講師：中村 桂子 氏

【写真⑦】2009 年 年末会員集会

2010–2011
平成 22 年～23 年

［2010（平成 22）年］

1. 7
全国医書同業会新年互礼会に出席（会場：帝国ホテル）。

1. 15
新年会員集会を日本出版クラブ会館にて開催（出席 37 社　39 名）。

1. 19
社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」が日本出版クラブ会館にて開催され、祝意を表した。

2. 2
元理事長 三井　正光 氏（オーム社）逝去に際し、弔意を表明。

3. 1
株式会社羊土社が入会（会員社数　71 社）。

3. 26 ～ 4. 6
「バンコク国際ブックフェア 2010」（招待国：日本）への協賛。

4. 13
平成 22 年度文部科学大臣表彰科学技術賞として以下の 2 件が受賞。
〔表彰対象部門：科学技術賞理解増進部門〕
・「高分子分析ハンドブックの出版活動による化学研究の理解増進」森田　豊 氏（朝倉書店）
・「オンラインデータベースの構築による科学技術の理解増進」山本　幸夫 氏（丸善）

5. 12
財団法人日本出版クラブ主催の「第 49 回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 20
○第 59 期第 2 回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　66 社　内委任状出席　30 社）。
○会員向け研修会を開催。
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「モバイルインターネットデバイスと学びの可能性」
講　師　浜野　誠 氏（ソフトバンクモバイル）
参加者　42 社　約 80 名

7. 8 ～ 11
「第 17 回東京国際ブックフェア（TIBF2010）」への出展。初の試みとして、抽選の当選者に図書カードを進呈。
会　　場　東京ビッグサイト
特　設
コーナー　入門・基礎本コーナー
参加社数　64 社
出 展 数　2,111 点・2,591 冊
売　　上　466 冊　1,317,521 円

7. 12 ～ 8. 15
「自然科学書フェア 2010」を開催（10 月に名古屋で開かれた生物多様性条約第 10 回締約国会議（COP10）のパートナーシップ事業として）。
会　　場　丸善名古屋栄店
参加社数　41 社
出 展 数　111 点・310 冊
売　　上　84 冊　168,080 円

7. 15
第 60 期第 1 回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　67 社　内委任状出席　33 社）。

7. 17
「自然科学書フェア 2010」と連携を図り、「自然科学書協会講演会 2010」を開催（文部科学省後援）。
会　場　名古屋商工会議所第 5 会議室
演　題　「愛知名古屋の COP10 について」
講　師　香坂　玲 氏（名古屋市立大学）**【写真①】**
演　題　「生き物とかおりの神秘」
講　師　澁谷　達明 氏（筑波大学名誉教授、嗅覚味覚研究所、香りの図書館）**【写真②】**
参加者　54 名

7. 23
社団法人出版梓会「業界・会員社懇親の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

8. 30 ～ 9. 3
「第 17 回北京国際図書展示会（BIBF2010）」への出展（23 社・140 点の出品）。
会　場　中国国際展覧センター

8. 31
株式会社工業調査会が退会（会員社数　70 社）。

10. 6 ～ 10
「第 62 回フランクフルトブックフェア（FBF2010）」への出展（26 社・52 点の出品）。
会　場　フランクフルトメッセ

11. 11
東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 13 回出版・印刷人の集い」に社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。
会　場　日本出版会館
演　題　「電子書籍の現状と将来像－総務省プロジェクトを踏まえて－」
講　師　植村　八潮 氏（東京電機大学出版局）

11. 25
社団法人日本出版取次協会の「60 周年記念祝賀会」に出席（会場：東京ドームホテル）。

12. 2
年末会員集会を東京會館にて開催（参加者　108 名）。

［2011（平成 23）年］

1. 5
全国医書同業会新年互礼会に出席（会場：帝国ホテル）。

1. 18
社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」に出席、祝意を表した（会場：日本出版クラブ会館）。

1. 20
新年会員集会を日本出版クラブ会館にて開催（出席 35 社　41 名）。

3. 4
財団法人東京大学出版会の「創立 60 周年 感謝の集い」に出席（会場：東京大学山上会館）。

3. 11
東日本大震災発生。当協会は以下の取り組みを実施。
・当協会のホームページや会報にて、被災者へのお見舞い文を掲載。
・会員各社に対して、被災者および救援活動者向けに救済や復興に必要と思われる情報が掲載されている出版物からの情報発信のお願い。
・この年の「東京国際ブックフェア 2011」において、当協会ブースで販売した出版物の売上金の 15%（178,394 円）を寄付。

4. 20
平成 23 年度文部科学大臣表彰科学技術賞として以下の 1 件が受賞。
〔表彰対象部門：科学技術賞理解増進部門〕
「一連の元素周期表の出版による青少年の化学知識の理解増進」平　祐幸 氏（化学同人）

4. 21
社団法人出版梓会と共催で、会員向け合同研修会を開催。**【写真③】**
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「amazon におけるオンデマンド事業」
講　師　友田　雄介 氏（アマゾンジャパン）
　　岩橋　理恵 氏（同上）
参加者　23 社　33 名

5. 13
財団法人日本出版クラブ主催の「第 50 回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 19
第 60 期第 2 回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　68 社　内委任状出席　32 社）。

7. 7 ～ 10
「第 18 回東京国際ブックフェア（TIBF2011）」への出展。
会　　場　東京ビッグサイト
特設コーナー　事典、図鑑、ハンドブック、震災復興関連書
参加社数　62 社
出 展 数　2,445 点・3,156 冊
売　　上　442 冊　1,189,288 円

7. 21
第 61 期第 1 回通常総会を日本出版クラブ会館にて開

催（出席会員数　67 社　内委任状出席　33 社）。

7. 29

社団法人出版梓会「業界・会員社懇親の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

8. 31 ～ 9. 4

「第 18 回北京国際図書展示会（BIBF2011）」への出展（17 社・110 点の出品）。

会　場　中国国際展覧センター（新館）

9. 9 ～ 10. 10

「自然科学書フェア 2011」を開催。**【写真④】**

会　　場　紀伊國屋書店梅田本店（大阪）

テ ー マ　リファレンスブック

参加社数　43 社

出 展 数　291 点・1,145 冊

売　　上　214 冊　1,009,361 円

9. 10

サイエンスカフェを三省堂書店と共催で開催。

会　場　三省堂書店神田神保町本店　UCC カフェコンフォート

演　題　「宇宙生命は存在するか－天文学からのアプローチ－」

講　師　渡部　潤一 氏（国立天文台）

参加者　25 名

9. 18

「自然科学書フェア 2011」と連携を図り、「自然科学書協会講演会 2011」を開催（文部科学省後援）。

会　場　阪急ターミナルスクウエア・17（大阪）

演　題　「クニマスは生きている－伝説から科学へ－」

講　師　中坊　徹次 氏（京都大学）**【写真⑤】**

演　題　「ロボットが環境適応能力を持つには－なぜ小さなアリが大きな蟻塚を作れるのか－」

講　師　大須賀　公一 氏（大阪大学）**【写真⑥】**

参加者　61 名

10. 7

出版平和堂第 43 回合祀者顕彰会が執り行われた（当協会関係合祀者：三井　正光 氏（オーム社）・牛来　武知 氏（コロナ社））。

10. 12 ～ 16

「第 63 回フランクフルトブックフェア（FBF2011）」への出展（20 社・41 点の出品）。**【写真⑦】**

会　場　フランクフルトメッセ

10. 28

○第 3 回高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」贈呈式・祝賀会に出席（会場：クラブ関東）。

○一般社団法人への移行申請書を内閣府に提出。

11. 1

一般社団法人日本医書出版協会の「創立 50 周年記念式典・祝賀会」に出席（会場：帝国ホテル）。

11. 8

社団法人出版梓会と共催で、会員向け合同研修会を開催。**【写真⑧】**

会　場　日本出版クラブ会館

演　題　「図書館電子化の現在」

講　師　竹内　比呂也 氏（千葉大学）
　　盛田　宏久 氏（大日本印刷）

参加者　23 社　41 名

11. 17

東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 14 回出版・印刷人の集い」に社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。

会　場　日本出版会館

演　題　「デジタルメディアの影響と出版産業の方向性」

講　師　星野　渉 氏（文化通信社）

12. 1

○株式会社廣川書店が退会（会員社数 69 社）。

○年末会員集会を東京會館にて開催（出席者数　107 名）。

【写真①】講師：香坂　玲 氏

【写真②】講師：澁谷 達明 氏

自然科学書協会講演会 2010

【写真③】会員向け合同研修会

【写真④】自然科学書フェア 2011（紀伊國屋書店梅田本店）

【写真⑤】講師：中坊 徹次 氏

【写真⑥】講師：大須賀 公一 氏

自然科学書協会講演会 2011

【写真⑦】FBF2011　協会ブース

【写真⑧】会員向け合同研修会

2012–2013
平成 24 年～25 年

［2012（平成 24）年］

1. 5
全国医書同業会新年互礼会に出席（会場：帝国ホテル）。

1. 17
社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」に出席、祝意を表した（会場：日本出版クラブ会館）。

1. 19
新年会員集会を日本出版クラブ会館にて開催（出席 45 社、50 名）。**【写真①】**

5. 1 ～ 6. 27
「自然科学書フェア 2012」を開催。**【写真②】**
会　　場　丸善博多店
テ ー マ　古典・最新刊が誘う自然科学の世界
参加社数　42 社
出 展 数　209 点・972 冊
売　　上　75 点　115 冊　369,500 円

5. 6
財団法人日本出版クラブ主催の「第 51 回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 17
第 61 期第 2 回通常総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　66 社　内委任状出席　30 社）。

5. 21
土木・建築書協会と共催で、会員向け合同研修会を開催。**【写真③】**
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「大学図書館と専門書出版社」
講　師　逸村　裕 氏（筑波大学）
参加者　29 社　49 名

5. 22
内閣府にて「一般社団法人」移行認可書を受領。

6. 1
○「一般社団法人　自然科学書協会」の登記を行う。
○株式会社近代出版が入会（会員数　70 社）。

6. 11
一般社団法人への移行登記完了届を文部科学大臣に提出。

7. 5 ～ 8
「第 19 回東京国際ブックフェア（TIBF2012）」への出展。**【写真④】**
会　　場　東京ビッグサイト
特　設コーナー　震災復興関連書
参加社数　61 社
出 展 数　2,041 点・2,580 冊
売　　上　453 冊　1,205,333 円

7. 19
第 62 期第 1 回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　68 社　内議決権行使書による賛成 34 社）。

7. 22
「自然科学書協会講演会 2012」を開催（文部科学省後援）。
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「身近にあふれるサイエンス」
講　師　内田　麻理香 氏（サイエンスライター・サイエンスコミュニケーター）**【写真⑤】**
演　題　「宇宙はどうやってできたか、ブラックホールはどのようなものであるか」
講　師　竹内　薫 氏（サイエンス作家）**【写真⑥】**
参加者　106 名

7. 27
社団法人出版梓会「業界・会員社懇親の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

8. 29 ～ 9. 2
「第 19 回北京国際図書展示会（BIBF2012）」への出展（20 社・184 点の出品）。
会　場　中国国際展覧センター（新館）

10. 5
出版平和堂第 44 回出版功労者顕彰会が執り行われた

（当協会関係合祀者：岡田　吉弘 氏（海文堂出版））。

10. 10 ～ 14

「第 64 回フランクフルトブックフェア（FBF2012）」への出展（21 社・40 点の出品）。

会　場　フランクフルトメッセ

10. 26

第 4 回高橋松之助記念「朝の読書大賞」「文字・活字文化推進大賞」贈呈式・祝賀会に出席（会場：クラブ関東）。

11. 16

株式会社学会出版センターが退会（会員数　69 社）。

11. 19

東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 15 回出版・印刷人の集い」に一般社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。

会　場　日本出版会館

演　題　「脳を創る読書－『紙の本』は終わったのか？－」

講　師　酒井　邦嘉 氏（東京大学）

11. 22

文化産業信用組合の「創立 60 周年記念　講演会・懇親会」に出席（会場：銀行倶楽部）。

12. 6

年末会員集会を東京會館にて開催（出席者数　110 名）。

［2013（平成 25）年］

1. 5

全国医書同業会の「創立 120 周年記念新年互礼会」に出席（会場：帝国ホテル）。

1. 17

○新年会員集会を日本出版クラブ会館にて開催（出席 38 社　43 名）。

○一般社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」に出席、祝意を表した（会場：日本出版クラブ会館）。

5. 8

一般財団法人日本出版クラブ主催の「第 52 回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 16

第 62 期第 2 回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　65 社　内議決権行使書による賛成 34 社）。

5. 31

一般社団法人大学出版部協会の「創立 50 周年記念感謝の会」に出席（会場：学士会館）。

6. 1 ～ 30

「自然科学書フェア 2013」を開催。**【写真⑦】**

会　　場　紀伊國屋書店札幌本店

テ ー マ　自然科学書の力・科学立国日本の再生

参加社数　47 社

出 展 数　879 点・1,368 冊

売　　上　493 冊　1,439,193 円

7. 3 ～ 6

「第 20 回東京国際ブックフェア（TIBF2013）」への出展。

会　　場　東京ビッグサイト

特　　設
コーナー　震災復興関連書

参加社数　60 社

出 展 数　2,005 点・2,539 冊

売　　上　415 冊　1,141,343 円

7. 18

第 63 期第 1 回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　60 社　内議決権行使書による賛成 30 社）。

7. 21

「自然科学書協会講演会 2013」を開催（文部科学省後援）。

会　場　日本出版クラブ会館

演　題　「生きた題材で数学を楽しもう」

講　師　芳沢　光雄 氏（桜美林大学）**【写真⑧】**

演　題　「地球温暖化と自然エネルギー－環業革命の現在－」

講　師　山根　一眞 氏（ノンフィクション作家、獨協大学）**【写真⑨】**

参加者　112 名

7. 26

一般社団法人出版梓会「業界・会員社懇親の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

8. 1

所在地表記の変更の登記。
「主たる事務所」の所在地を「東京都千代田区神田神保町一丁目 101 番地　文化産業信用組合内」とあるのを「東京都千代田区神田神保町一丁目 101 番地」に変更。

8. 28 ～ 9. 1

「第 20 回北京国際図書展示会（BIBF2013）」への出展（18 社・194 点の出品）。
会　場　中国国際展覧センター（新館）

9. 6 ～ 10. 4

今年度 2 回目の「自然科学書フェア 2013」を開催。
【写真⑩】
会　　場　三省堂書店名古屋高島屋店
テ ー マ　科学と医学・技術図書フェア
参加社数　81 社（共催団体含む）
出 展 数　3,578 点・5,781 冊
売　　上　1,388 冊　3,409,614 円

10. 5

出版平和堂第 45 回出版功労者顕彰会が執り行われた（当協会関係合祀者：佐藤　政次 氏（オーム社）・吉野　達治 氏（裳華房））。

10. 9 ～ 13

「第 65 回フランクフルトブックフェア（FBF2013）」への出展（18 社・33 点の出品）。
会　場　フランクフルトメッセ

11. 14

会員向け研修会として国立国会図書館参観を開催（参加者　17 社　24 名）。**【写真⑪】**

11. 21

東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 16 回出版・印刷人の集い」に一般社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。
会　場　日本出版会館
演　題　「いまこそ出版にマーケティングの発想を」
講　師　中町　英樹 氏（日本書籍出版協会）

11. 28

一般社団法人出版文化国際交流会の「創立 60 周年記念　感謝の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

12. 5

○第 63 期第 1 回会員集会を東京會館にて開催。
○年末懇親会を同会場にて開催（出席者数　111 名）。

【写真①】2012 年新年会員集会

【写真②】自然科学書フェア 2012（丸善博多店）

【写真③】会員向け合同研修会

【写真④】TIBF2012　協会ブース

【写真⑤】講師：内田 麻理香 氏

【写真⑥】講師：竹内　薫 氏

自然科学書協会講演会 2012

【写真⑦】自然科学書フェア 2013（紀伊國屋書店札幌本店）

【写真⑧】講師：芳沢 光雄 氏

【写真⑨】講師：山根 一眞 氏

自然科学書協会講演会 2013

【写真⑩】自然科学書フェア 2013
（三省堂書店名古屋高島屋店）

【写真⑪】会員向け研修会（国立国会図書館）

2014–2015
平成26年～27年

［2014（平成26）年］

1. 6

全国医書同業会新年互礼会に出席（会場：帝国ホテル）。

1. 16

○新年懇親会を日本出版クラブ会館にて開催（出席36社　39名）。

○一般社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」に出席、祝意を表した（会場：日本出版クラブ会館）。

5. 14

一般財団法人日本出版クラブ主催の「第53回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 15

○第63期第2回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　63社　内議決権行使書による賛成　29社）。

○第63期第2回会員集会を同会場にて開催。

5. 28

会員向け研修会として国立国会図書館参観を開催（参加者　17社　24名）。

6. 22

サイエンスカフェを三省堂書店と共催で開催。

【写真①】

会　　場　三省堂書店本店2階UCCカフェコンフォート
演　　題　「グローバルヘルスとリーダーシップ」
講　　師　浦島　充佳 氏（慈恵会医科大学）
コーディネータ　保坂　直紀 氏（東京大学）
参　加　者　14名

7. 2～5

「第21回東京国際ブックフェア（TIBF2014）」への出展。

会　　場　東京ビッグサイト
特　　設　ビギナーにおすすめ、目で見るサイエンス・統計学はおもしろい
コーナー
参加社数　会員社　62社＋非会員社　3社
出 展 数　1,908点・2,536冊
売　　上　517冊　1,353,234円

7. 17

○第64期第1回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　60社　内議決権行使書による賛成　34社）。

○第64期第1回会員集会を同会場にて開催。

7. 25

一般社団法人出版梓会「業界・会員社懇親の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

7. 27

「自然科学書協会講演会2014」を開催（文部科学省後援）。

会　場　アルカディア市ヶ谷（私学会館）
演　題　「わが心に残る発酵食品」
講　師　小泉　武夫 氏（東京農業大学名誉教授）**【写真②】**
参加者　111名

8. 27～31

「第21回北京国際図書展示会（BIBF2014）」への出展（23社・291点の出品）。**【写真③】**
当協会より出品補助金を支出。
会　場　中国国際展覧センター（新館）

9. 30

株式会社昭晃堂が退会（会員数　68社）。

10. 1～31

「自然科学書フェア2014」を開催。**【写真④・⑤】**

会　　場　喜久屋書店小倉店
テ ー マ　科学立国日本を支える自然科学書の力
参加社数　44社
出 展 数　857点・1,063冊
売　　上　89点　101冊　282,724円

10. 3

出版平和堂第46回出版功労者顕彰会が執り行われた（当協会関係合祀者：坂本　尚 氏（農山漁村文化協会））。**【写真⑥】**

10. 8～12
「第66回フランクフルトブックフェア（FBF2014）」への出展（18社・43点の出品）。
会　場　フランクフルトメッセ

10. 16
第64期第2回会員集会を開催（会場：日本出版クラブ会館）。

11. 18
東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第17回出版・印刷人の集い」に一般社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。
会　場　日本出版会館
演　題　「図書館の現状と図書館利用者からみた出版」
講　師　谷一　文子 氏（図書館流通センター・神奈川県海老名市立中央図書館）**【写真⑦】**

11. 27
合資会社相模書房が退会（会員数　67社）。

12. 4
年末懇親会を東京會館にて開催（出席者数　102名）。

[2015（平成27）年]

1. 5
全国医書同業会新年互礼会に出席（会場：帝国ホテル）。

1. 15
○第64期第3回会員集会を日本出版クラブ会館にて開催。
○新年懇親会を同会場にて開催（出席33社　37名）。

1. 16
一般社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」に出席、祝意を表した（会場：日本出版クラブ会館）。

5. 11
一般財団法人日本出版クラブ主催の「第54回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5. 21
○第64期第2回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　57社　内議決権行使書による賛成　30社）。
○第64期第4回会員集会を同会場にて開催。

6. 3～8. 2
「自然科学書フェア2015」を開催。**【写真⑧】**
会　　場　大垣書店イオンモールKYOTO店
テ ー マ　科学立国日本を支える自然科学書の力
参加社数　51社（共催団体含む）
出 展 数　1,654点・3,802冊
売　　上　354点　619冊　1,306,293円

6. 20
サイエンスカフェを開催。
会　場　大垣書店イオンモールKYOTO店
演　題　「土壌と私たち－土の歌を聴け－」
講　師　矢内　純太 氏（京都府立大学）
参加者　30名

7. 1～4
「第22回東京国際ブックフェア（TIBF2015）」への出展。**【写真⑨】**
会　　場　東京ビッグサイト
特　設コーナー　ビギナーにおすすめ、目で見るサイエンス
参加社数　会員社　60社＋非会員社　2社
出 展 数　1,762点・2,460冊
売　　上　674冊　1,572,635円

7. 4
「三省堂書店名古屋高島屋店15周年記念講演会」（サイエンスカフェ）を三省堂書店と共催で開催。
会　　場　Mike's Corner
演　　題　「スポーツを脳科学する」
講　　師　荒巻　勇 氏（中京大学）
コーディネータ　野村　悦芳 氏（中日新聞）
参　加　者　17名

7. 16
○第65期第1回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　61社　内議決権行使書による賛成　32社）。
○第65期第1回会員集会を同会場にて開催。

7. 24
一般社団法人出版梓会「業界・会員社懇親の集い」に出席（会場：日本出版クラブ会館）。

7. 25
2回目のサイエンスカフェを開催。**【写真⑩】**

会　場　大垣書店イオンモール KYOTO 店
演　題　「『生まれ変わる動物園』その後」
講　師　田中　正之 氏（京都市動物園）
参加者　10 名

8. 26 ～ 30
「第 22 回北京国際図書展示会（BIBF2015）」への出展（22 社・233 点の出品）。当協会より出品補助金を支出。
会　場　中国国際展覧センター（新館）

8. 27
会員向けに「出版権設定契約書ヒナ型」の説明会を日本出版クラブ会館にて開催。

8. 30
「自然科学書協会講演会 2015」を開催（文部科学省後援）。
会　場　日本出版クラブ会館
演　題　「脳を知って、脳を活かす」
講　師　池谷　裕二 氏（東京大学）**【写真⑪】**
参加者　144 名

10. 8
第 65 期第 2 回会員集会を開催（会場：日本出版クラブ会館）。

10. 14 ～ 18
「第 67 回フランクフルトブックフェア（FBF2015）」への出展（17 社・44 点の出品）。
会　場　フランクフルトメッセ

11. 17
東京都印刷工業組合出版メディア協議会主催の「第 18 回出版・印刷人の集い」に一般社団法人出版梓会と共に協賛し、講演会を開催。
会　場　日本出版会館
演　題　「大阪屋、栗田問題からみる出版業界の今後
　　－進む集中化と取引制度の変化－」
講　師　星野　渉 氏（文化通信社）

12. 3
年末懇親会を日本出版クラブ会館にて開催（出席者数 98 名）。

【写真①】サイエンスカフェ（三省堂書店本店）

【写真②】自然科学書協会講演会 2014　講師：小泉 武夫 氏

【写真③】BIBF2014　協会ブース

【写真④】会場風景

【写真⑤】喜久屋書店の幹部との勉強会

自然科学書フェア 2014（喜久屋書店小倉店）

【写真⑥】出版功労者顕彰会　献花をする金原理事長（前列右側）

【写真⑦】出版・印刷人の集い　講師：谷一 文子 氏

【写真⑧】自然科学書フェア 2015（大垣書店イオンモール KYOTO 店）

【写真⑨】TIBF2015　協会ブース

【写真⑩】サイエンスカフェ（大垣書店イオンモール KYOTO 店）

【写真⑪】自然科学書協会講演会 2015　講師：池谷 裕二 氏

2016
平成 28 年

［2016（平成 28）年］

1．5

全国医書同業会新年互礼会に出席（会場：ホテルグランドパレス）。

1．14

一般社団法人出版梓会「出版文化賞贈呈式」に出席、祝意を表した（会場：日本出版クラブ会館）。

1．21

○第 65 期第 3 回会員集会を日本出版クラブ会館にて開催。

○新年懇親会を同会場にて開催（出席 32 社　32 名）。**【写真①】**

1．30

元理事長 朝倉　邦造 氏（朝倉書店）逝去に際し、弔意を表明。

5．18

一般財団法人日本出版クラブ主催の「第 55 回全出版人大会」をホテルニューオータニにて開催。

5．19

○第 65 期第 2 回定時総会を日本出版クラブ会館にて開催（出席会員数　56 社　内議決権行使書による賛成　31 社）。**【写真②】**

○第 65 期第 4 回会員集会を同会場にて開催。

5．31

株式会社シーエムシー出版が退会（会員数　66 社）。

【写真①】新年懇親会

【写真②】定時総会

役 員 名 簿

役員就任推移（各期首当時）

2006（平成 18）年度（56 期）

理 事 長　志村幸雄
専務理事　本郷允彦
常務理事　南條光章、筑紫恒男、牛来辰巳、山本　格
理　　事　朝倉邦造、金原　優、宮部信明、佐藤政次、曽根良介、長　祥隆、飯塚尚彦、後藤　武、藤実彰一、山口雅己、平田　直、松嶋　徹、森北　肇、及川　清
監　　事　岡田吉弘、森田　猛、大谷健美
相 談 役　中川廣一、吉野達治

志村理事長

2007（平成 19）年度（57 期）

理 事 長　本郷允彦
専務理事　筑紫恒男
常務理事　南條光章、後藤　武、山本　格、及川　清
理　　事　朝倉邦造、金原　優、大畑秀穂、宮部信明、佐藤政次、曽根良介、新谷滋記、牛来辰巳、飯塚尚彦、藤実彰一、山口雅己、平田　直、中村俊司、森田　猛
監　　事　岡田吉弘、柴山斐呂子、大谷健美
顧　　問　志村幸雄
相 談 役　長　祥隆、森北　肇

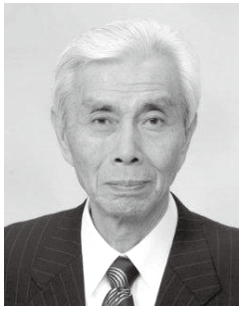
本郷理事長

2008（平成 20）年度（58 期）

理 事 長　本郷允彦
専務理事　筑紫恒男
常務理事　南條光章、後藤　武、山本　格、及川　清
理　　事　朝倉邦造、金原　優、大畑秀穂、宮部信明、佐藤政次、曽根良介、新谷滋記、牛来辰巳、飯塚尚彦、藤実彰一、山口雅己、平田　直、森田　猛
監　　事　岡田吉弘、柴山斐呂子、大谷健美
顧　　問　志村幸雄
相 談 役　長　祥隆、森北　肇

2009（平成 21）年度（59 期）

理 事 長　後藤　武
専務理事　筑紫恒男
常務理事　宮部信明、南條光章、新谷滋記、平田　直
理　　事　朝倉邦造、金原　優、大畑秀穂、竹生修己、曽根良介、長　滋彦、牛来真也、飯塚尚彦、田中久米四郎、山口雅己、小立鉦彦、山本　格、森田　猛、及川　清
監　　事　岡田吉弘、伊藤富士男、大谷健美
顧　　問　本郷允彦
相 談 役　佐藤政次、長　祥隆、志村幸雄、牛来辰巳、森北　肇


後藤理事長

2010（平成 22）年度（60 期）

理 事 長　後藤　武
専務理事　筑紫恒男
常務理事　宮部信明、南條光章、新谷滋記、平田　直
理　　事　朝倉邦造、金原　優、大畑秀穂、竹生修己、曽根良介、長　滋彦、牛来真也、
　　飯塚尚彦、田中久米四郎、山口雅己、小立鉦彦、山本　格、森田　猛、
　　及川　清
監　　事　伊藤富士男、大谷健美
顧　　問　本郷允彦
相 談 役　佐藤政次、長　祥隆、志村幸雄、牛来辰巳、森北　肇

2011（平成 23）年度（61 期）

理 事 長　後藤　武
専務理事　森田　猛
常務理事　大畑秀穂、宮部信明、竹生修己、南條光章
理　　事　白原秀雄、金原　優、曽根良介、長　滋彦、筑紫恒男、牛来真也、飯塚尚彦、
　　田中久米四郎、山口雅己、平田　直、小立鉦彦、伊藤富士男、吉田明彦、及川　清
監　　事　秀島　功、山本　格、大谷健美
顧　　問　朝倉邦造
相 談 役　佐藤政次、牛来辰巳、本郷允彦、志村幸雄

2012（平成 24）年度（62 期）

理 事 長　後藤　武
専務理事　森田　猛
常務理事　大畑秀穂、宮部信明、竹生修己、南條光章
理　　事　白原秀雄、金原　優、曽根良介、長　滋彦、筑紫恒男、牛来真也、飯塚尚彦、
　　田中久米四郎、山口雅己、平田　直、小立鉦彦、伊藤富士男、及川　清
監　　事　秀島　功、山本　格、大谷健美
顧　　問　朝倉邦造
相 談 役　牛来辰巳、本郷允彦、志村幸雄

2013（平成 25）年度（63 期）

理 事 長　金原　優
専務理事　南條光章
常務理事　宮部信明、飯塚尚彦、小立鉦彦、伊藤富士男
理　　事　朝倉誠造、大畑秀穂、竹生修己、曽根良介、長　滋彦、筑紫恒男、牛来真也、
　　吉野和浩、後藤　武、黒田拓也、梅澤俊彦、池田和博、森田　猛、及川　清
監　　事　田中久米四郎、山本　格、大谷健美
相 談 役　朝倉邦造、山口雅己、平田　直、本郷允彦

金原理事長

2014（平成 26）年度（64 期）

理 事 長　金原　優
専務理事　南條光章
常務理事　宮部信明、飯塚尚彦、小立鉦彦、伊藤富士男
理　　事　朝倉誠造、大畑秀穂、竹生修己、曽根良介、長　滋彦、筑紫恒男、牛来真也、
　　吉野和浩、後藤　武、黒田拓也、梅澤俊彦、池田和博、森田　猛、及川　清
監　　事　田中久米四郎、山本　格、大谷健美
相 談 役　朝倉邦造、山口雅己、平田　直、本郷允彦

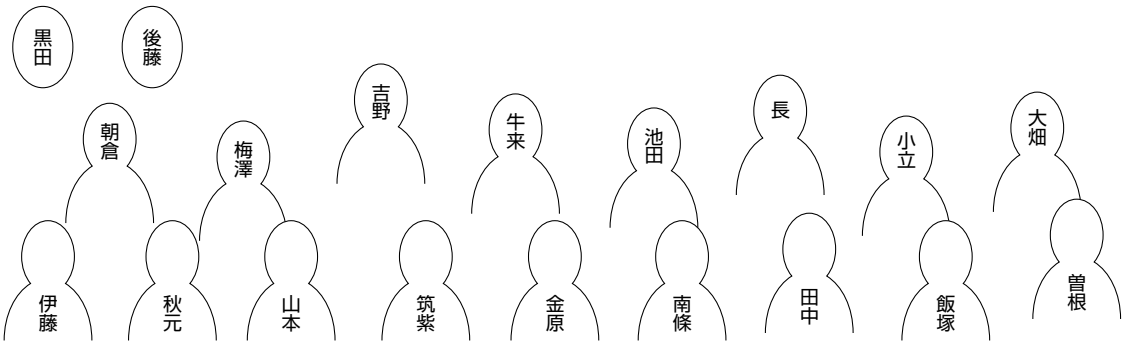
2015（平成 27）年度（65 期）

理 事 長　金原　優
副理事長　南條光章、筑紫恒男
理　　事　朝倉誠造、大畑秀穂、曽根良介、長　滋彦、牛来真也、飯塚尚彦、吉野和浩、
　　黒田拓也、小立鉦彦、梅澤俊彦、伊藤富士男、池田和博
監　　事　田中久米四郎、山本　格、秋元康男
顧　　問　後藤　武
相 談 役　朝倉邦造、宮部信明、山口雅己、平田　直、森田　猛、及川　清

※ 2015 年度より専務・常務理事の役職を廃止し、新たに副理事長職を設けた。また理事の人数を 10 名以上 15 名以下とした。

2016（平成 28）年度（66 期）

理事長	医学書院	金原　優	理　事	日本医事新報社	梅澤俊彦
副理事長	共立出版	南條光章	同	農山漁村文化協会	伊藤富士男
同	建帛社	筑紫恒男	同	丸善出版	池田和博
理　事	朝倉書店	朝倉誠造	監　事	電気書院	田中　久米四郎
同	医歯薬出版	大畑秀穂	同	培風館	山本　格
同	化学同人	曽根良介	同	文化産業信用組合	秋元康男
同	技報堂出版	長　滋彦	顧　問	彰国社	後藤　武
同	コロナ社	牛来真也	相談役	元 岩波書店	宮部信明
同	産業図書	飯塚尚彦	同	元 東京大学出版会	山口雅己
同	裳華房	吉野和浩	同	中山書店	平田　直
同	東京大学出版会	黒田拓也	同	緑書房	森田　猛
同	南江堂	小立鉦彦	同	養賢堂	及川　清



第 65・66 期役員

現在の会員名簿

現在の会員名簿［66 社］（2016 年 5 月末日（65 期末）現在）

会社名	当会の代表者	郵便番号	住　所	電話番号
株式会社 朝倉書店	朝倉　誠造	162-8707	東京都新宿区新小川町 6-29	03-3260-0141
一般社団法人 家の光協会	髙杉　昇	162-8448	東京都新宿区市谷船河原町 11	03-3266-9000
株式会社 医学書院	金原　優	113-8719	東京都文京区本郷 1-28-23	03-3817-5610
医歯薬出版 株式会社	大畑　秀穂	113-8612	東京都文京区本駒込 1-7-10	03-5395-7600
株式会社 井上書院	石川　泰章	113-0034	東京都文京区湯島 2-17-15 斎藤ビル 4 階	03-5689-5481
株式会社 医薬ジャーナル社	沼田　稔	541-0047	大阪市中央区淡路町 3-1-5 淡路町ビル 21	06-6202-7280
株式会社 岩波書店	桑原　正雄	101-8002	東京都千代田区一ツ橋 2-5-5	03-5210-4000
株式会社 内田老鶴圃	内田　学	112-0012	東京都文京区大塚 3-34-3	03-3945-6781
株式会社 オーム社	村上　和夫	101-8460	東京都千代田区神田錦町 3-1	03-3233-0641
海文堂出版 株式会社	岡田　節夫	112-0005	東京都文京区水道 2-5-4	03-3815-3291
株式会社 化学同人	曽根　良介	600-8074	京都市下京区仏光寺通柳馬場西入ル	075-352-3373
株式会社 学窓社	山口　啓子	113-0024	東京都文京区西片 2-16-28	03-3818-8701
株式会社 鹿島出版会	坪内　文生	104-0028	東京都中央区八重洲 2-5-14	03-6202-5200
金原出版 株式会社	福村　直樹	113-8687	東京都文京区湯島 2-31-14	03-3811-7184
株式会社 協同医書出版社	中村　三夫	113-0033	東京都文京区本郷 3-21-10 浅沼第 2 ビル 4 階	03-3818-2361
共立出版 株式会社	南條　光章	112-0006	東京都文京区小日向 4-6-19	03-3947-2511
株式会社 杏林書院	太田　康平	113-0034	東京都文京区湯島 4-2-1	03-3811-4887
技報堂出版 株式会社	長　滋彦	101-0051	東京都千代田区神田神保町 1-2-5　和栗ハトヤビル	03-5217-0883
株式会社 近代出版	菅原　律子	150-0002	東京都渋谷区渋谷 2-10-9　210 野村ビル 5 階	03-3499-5191
株式会社 金芳堂	宇山　閑文	606-8425	京都市左京区鹿ヶ谷西寺ノ前町 34	075-751-1111
株式会社 建帛社	筑紫　恒男	112-0011	東京都文京区千石 4-2-15	03-3944-2613
株式会社 光生館	中川　誠一	112-0012	東京都文京区大塚 3-11-2　音羽ビル 7 階	03-3943-3335
株式会社 恒星社厚生閣	片岡　一成	160-0008	東京都新宿区三栄町 8	03-3359-7371
株式会社 講談社サイエンティフィク	矢吹　俊吉	162-0825	東京都新宿区神楽坂 2-14　ノービィビル 6 階	03-3235-3701
克誠堂出版 株式会社	今井　良	113-0033	東京都文京区本郷 3-23-5-202	03-3811-0995
株式会社 コロナ社	牛来　真也	112-0011	東京都文京区千石 4-46-10	03-3941-3131
株式会社 サイエンス社	森平　敏孝	151-0051	東京都渋谷区千駄ヶ谷 1-3-25　サイエンスビル	03-5474-8500
三共出版 株式会社	秀島　功	101-0051	東京都千代田区神田神保町 3-2	03-3264-5711
産業図書 株式会社	飯塚　尚彦	102-0072	東京都千代田区飯田橋 2-11-3	03-3261-7821
実教出版 株式会社	戸塚　雄弐	102-8377	東京都千代田区五番町 5	03-3238-7700
株式会社 裳華房	吉野　和浩	102-0081	東京都千代田区四番町 8-1	03-3262-9166
株式会社 彰国社	下出　雅徳	162-0067	東京都新宿区富久町 8-21　T&T ビル	03-3359-3231
株式会社 新興医学出版社	林　峰子	113-0033	東京都文京区本郷 6-26-8	03-3816-2853
株式会社 診断と治療社	藤実　彰一	100-0014	東京都千代田区永田町 2-14-2 山王グランドビル 4 階	03-3580-2770
株式会社 誠文堂新光社	清水　敏	113-0033	東京都文京区本郷 3-3-11	03-5800-5780
株式会社 総合医学社	渡辺　嘉之	101-0061	東京都千代田区三崎町 1-1-4	03-3219-2920
第一出版 株式会社	加藤　友昭	102-0073	東京都千代田区九段北 3-2-5　九段北 325 ビル 8 階	03-5226-0999
株式会社 地人書館	上條　宰	162-0835	東京都新宿区中町 15	03-3235-4422
株式会社 中外医学社	青木　滋	162-0805	東京都新宿区矢来町 62	03-3268-2701
株式会社 電気書院	田中　久米四郎	151-0063	東京都渋谷区富ヶ谷 2-2-17	03-5259-9160

学校法人 東海大学出版部	橋本　敏明	259-1292	神奈川県平塚市北金目 4-1-1	0463-58-7811
一般財団法人 東京大学出版会	黒田　拓也	153-0041	東京都目黒区駒場 4-5-29	03-6407-1914
株式会社 同文書院	宇野　文博	112-0002	東京都文京区小石川 5-24-3	03-3812-7777
株式会社 永井書店	松浦　三男	553-0003	大阪市福島区福島 8-21-15	06-6452-1881
株式会社 中山書店	平田　直	112-0006	東京都文京区小日向 4-2-6	03-3813-1100
株式会社 南江堂	小立　鉦彦	113-8410	東京都文京区本郷 3-42-6	03-3811-7140
株式会社 南山堂	鈴木　肇	113-0034	東京都文京区湯島 4-1-11	03-5689-7868
株式会社 日刊工業新聞社	奥村　功	103-8548	東京都中央区日本橋小網町 14-1	03-5644-7410
株式会社 日本医事新報社	梅澤　俊彦	101-8718	東京都千代田区神田駿河台 2-9	03-3292-1551
日本工業出版 株式会社	小林　大作	113-8610	東京都文京区本駒込 6-3-26　日本工業出版ビル	03-3944-1181
株式会社 日本臨牀社	瓦谷　秀治	541-0045	大阪市中央区道修町 2-3-8	06-6204-2381
一般社団法人 農山漁村文化協会	伊藤　富士男	107-8668	東京都港区赤坂 7-6-1	03-3585-1141
株式会社 培風館	山本　格	102-8260	東京都千代田区九段南 4-3-12	03-3262-5256
株式会社 博友社	大橋　一弘	116-0002	東京都荒川区荒川 5-9-7　博文館ビル 6 階	03-6458-3872
文永堂出版 株式会社	福　毅	113-0033	東京都文京区本郷 2-27-18	03-3814-3321
株式会社 文光堂	浅井　麻紀	113-0033	東京都文京区本郷 7-2-7	03-3813-5478
株式会社 へるす出版	長谷川　潤	164-0001	東京都中野区中野 2-2-3	03-3384-8035
株式会社 北隆館	福田　久子	153-0051	東京都目黒区上目黒 3-17-8	03-5720-1161
丸善出版 株式会社	池田　和博	101-0051	東京都千代田区神田神保町 2-17　神田神保町ビル 6 階	03-3512-3256
株式会社 緑書房	森田　猛	103-0004	東京都中央区東日本橋 2-8-3　東日本橋グリーンビル	03-6833-0560
株式会社 メジカルビュー社	鳥羽　清治	162-0845	東京都新宿区市谷本村町 2-30	03-5228-2050
株式会社 メディカル・サイエンス・インターナショナル	若松　博	113-0033	東京都文京区本郷 1-28-36　鳳明ビル 2 階	03-5804-6050
森北出版 株式会社	森北　肇	102-0071	東京都千代田区富士見 1-4-11	03-3265-8341
株式会社 養賢堂	及川　清	113-0033	東京都文京区本郷 5-30-15	03-3814-0911
株式会社 羊土社	一戸　裕子	101-0052	東京都千代田区神田小川町 2-5-1	03-5282-1211
理工図書 株式会社	柴山　斐呂子	102-0082	東京都千代田区一番町 27-2　理工図書ビル 7 階	03-3230-0221

編 集 後 記

AI（人工知能）の研究が一気に進んできた。

AIという言葉は、もともと1950年代に米国のある会議で使われたとされている。1980年代以降が第2次ブームとされて、日本でも当時の通産省を中心に「第5世代コンピュータ」の研究がなされたが、その性能や価格面から応用への研究は結実しなかった。

現在は第3次ブームとされるが、ブームと言うことでは片付けられない大きな社会的現象となっている。以前からの研究対象である音声認識や画像処理といった学術的研究もさることながら、社会的現象のきっかけとなったうちの一つにチェスや将棋でAIの技術がプロに勝ったことが挙げられよう。

いまはさらに進んでビックデータを活用して、情報の中から高い精度で人間に近い判断を自らができるようになり、学術的な面からよりビジネス面での実用に移りつつあるのが大きな特徴である。そして、大手企業がこぞって研究者の獲得に乗り出して、社会により応用できる研究開発が強化されつつある。

一方で、人間の仕事のうちでもある程度の部分がAIに置き換わるという予想も多方面で議論されている。AIに置き換わるとしても、人間生活を中心に据えた倫理面での議論も、さらに煮詰めていかなければならないであろう。

いまの日本は成熟しつつある社会には映っているが、今後の10年で、そのような社会に新たな刺激と新しい改革をもたらしてくれるAIの研究成果に期待したいものである。同時に、出版の仕事がAIに置き換わることのないよう願ってやまない。（南條　光章）

自然科学書協会70周年記念事業特別委員会

委員長　金原　優（医学書院）
副委員長　南條　光章（共立出版）＜記念史担当＞
同　筑紫　恒男（建帛社）　＜記念会担当＞

＜記念会小委員会＞
委員長　吉野　和浩（裳華房）
委　員　長　滋彦（技報堂出版）
同　飯塚　尚彦（産業図書）

＜記念史小委員会＞
委員長　牛来　真也（コロナ社）
委　員　黒田　拓也（東京大学出版会）
同　池田　和博（丸善出版）

自然科学書協会70年史

（非売品）

印　刷　2016年11月11日
発　行　2016年11月28日

編　集　自然科学書協会 70周年記念史小委員会

発　行　一般社団法人 自然科学書協会

Ⓒ NSPA

東京都千代田区神田神保町1-101
神保町101ビル（〒101-0051）
電話 03-5577-6301
http://www.nspa.or.jp/

編集委託・新日本編集企画
印　刷・新日本印刷株式会社
製　本・積信堂